

令和6年度 自己評価書

学校名	和歌山市立野崎西小学校
校長氏名	中 村 憲 人
作成日	令和 7年 3月 7日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応してたくましく生きる心豊かな児童の育成に努める

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・全国、県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均以上を目指す ・毎日の授業がわかる90% ・児童の興味、関心、意欲を引き出させる指導の工夫をしている 100%	・学校が楽しいと感じる 90%以上 ・道徳教材の活用 100% ・いじめの解消率 100%	・朝ごはんを食べた 100% ・積極的に運動を行うよう、計画し実践した（教師90%）	・学校の様子がよく伝わった（保護者95%） ・子どもは学校の出来事をよく話す 95%
重点目標【P】	◎教員一人一人の授業力向上 ◎児童からの発言を大切に授業の推進 ◎家庭学習の定着	◎道徳・人権教育の充実 ◎一人一人を大切にする教育の推進 ○体験的活動を多く取り入れ、心豊かな子どもを育てる ○全児童を全職員で育てる	◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○危機回避能力の育成	◎家庭・地域との連携充実 ○地域の教育資源や人材活用の推進 ○地域の幼保小中学校連携推進
取組の状況【D】	○国語・算数の提案授業・協議会を通し、個々の教員の授業力向上に取り組んだ。 ○基礎学力向上にむけ朝学・屋学を計画的に運用することができた発達段階に応じた家庭学習の手引きを配付し「自主学習ノート」の作成を行った。	○学年に応じた読み物資料の活用や問題解決的な学習、体験的な学習を計画的、発展的に取り入れることができた。 ○各方面の専門家の出前授業で、考えを理解し多面的、多角的に物事を考える力をつけた。	○体育の教材研究や体育環境の整備を行い、授業実践を通して研究を深めることができた。 ○運動場で遊ぶ機会が増え遊びを通し体力の向上と豊かな心を育てることができた。	○HPを日々更新したり、学校だよりを毎月更新し学校での様子を伝えることができた。 ○ゲストティーチャーを積極的に活用し教育活動の活性化を図ることができた。 ○学校運営協議会、見守り会の方々に積極的に来校していただき、いただいた意見を保護者や地域にむけて発信できた
取組の成果と課題（評価）【C】	・研究授業では協議会でKJ法を用いて建設的な意見から、次の授業への足がかりができた。 ・朝学、屋学を利用して授業の補習など行うことができた。	・相手の立場に立った考え方ができる子が増えているが、実際の場面では難しい児童も存在する。自己肯定感を高め、相手の気持ちを考えて行動できる児童が増えることを期待する。 ・学校が楽しいと回答した児童は93%で概ね目標指数を越えている。	・夜更かしから寝坊し朝ごはんの時間がない、または食べてこない児童が一部みられた。 ・朝の運動など積極的に運動を行うよう、計画し実践した。	・テトル配信やHPを保護者は活用できているが、一部、関心がなく見ない家庭も存在する。様々な分野のゲストティーチャーが来校し有意義な体験学習ができた。
改善方法【A】 次年度に向けての	・意に沿わないことがあると徘徊や授業妨害をする児童が複数存在するため、更なる個別の支援を必要とする。生活指導補助員などの導入を期待する。	・授業妨害する児童に対する、周囲の児童の学力保障や、我慢が続いている児童の心のケアが必要である。	・保護者と一緒に夜更かしする家庭も存在し、屋夜逆転し登校の妨げになる家庭の指導。 ・虐待やヤングケアラー、児童相談所への一時保護などの事例も多いため日頃から児童の観察にアンテナを高くしておく必要がある。 ・特別支援学級の児童の中には聴覚のネグレクトで朝ごはんを食べさせてもらえず、空腹が原因で暴れたおす児童の指導にさらなる教師間の連携を必要とする。	・SNSで友だち間のトラブルが、保護者を巻き込む形になる事例もあり、SNSの使い方など毎年指導していく必要がある。 ・ゲストティーチャーに関しては、引き続きお願いしていきたい。 ・学校の出来事をよく話すは80%の指数だったので、HPで聞く時間を確保するよう計八していく必要がある。

3 その他の課題

* 崩壊しかけていた学級の見守り活動を、運営協議会の委員の皆さまに見ていただいたが、たいへんやなあとというばかりで、具体的な対応には至らなかった。明確な権限の中、建設的な意見を反映できるシステムの構築が喫緊の課題である。またこの学年は令和7年度は2学級から1学級になるため、かなり力のある教員の配置が必須で、生活指導補助員などの導入も必要である。
* しつけという名の虐待や、ネグレクト事象など、児童相談所では対応しきれない家庭もあるため、今後警察を視野に入れた体制が必要である。